



施工前に必ずお読みください

スイートフロア *Sweet to suite*

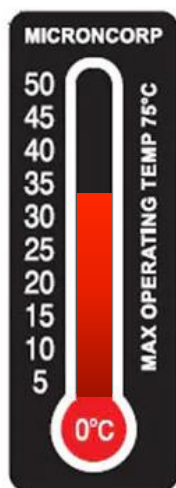
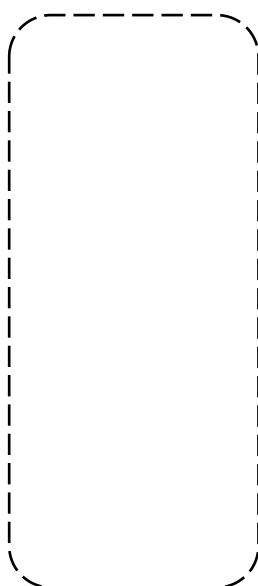
施工要領書

2025.6 改訂

はじめに

本書に規定する室温及び製品温度外で施工した場合の不具合に関して生ずる損害に関して、当社では一切の責任を負いかねますことをあらかじめご了承ください。

製品温度確認シール



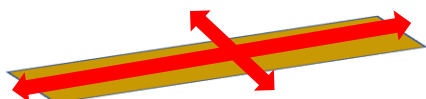
施工前に製品に直接貼付け、製品温度が **15~35°C** 以内にあることを確認してから施工を始めてください。

製品について

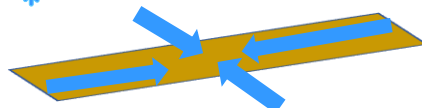
スイートフロアは、塩化ビニルを主原料としています。積層構造とし中間に高密度のガラス繊維シートを加えることで形状安定を図っています。

但し、適正温度外での保管と施工及び室内環境では、伸縮を繰り返します。

指定範囲内の温度環境で保管・設置頂くようお願いいたします。



高温で伸びやすく



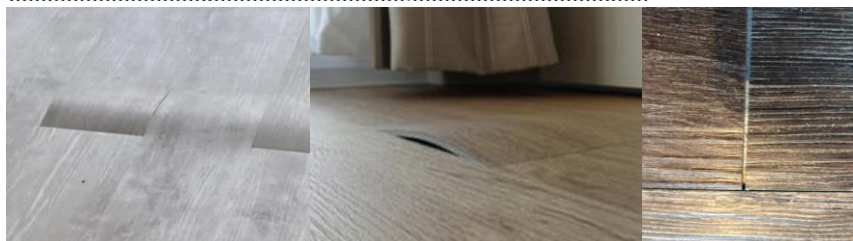
低温で縮みやすい

施工前の確認事項

スイートフロアは裏面にすべり止め機能を持ち、仮止め用のテープを貼ってから敷き置いておくだけで施工が可能な床材ですが、以下の環境下では、施工方法を変える必要がございますのでご理解ください。

- 設置温度(施工前から施工後一環して)が 15℃以下、又は 35℃以上。
- 水掃きを行う場所(厨房・トイレなど)
- 極端な温度変化が予想される環境。

上記の環境では、接着式施工を選択ください。(P 1 2 参照)



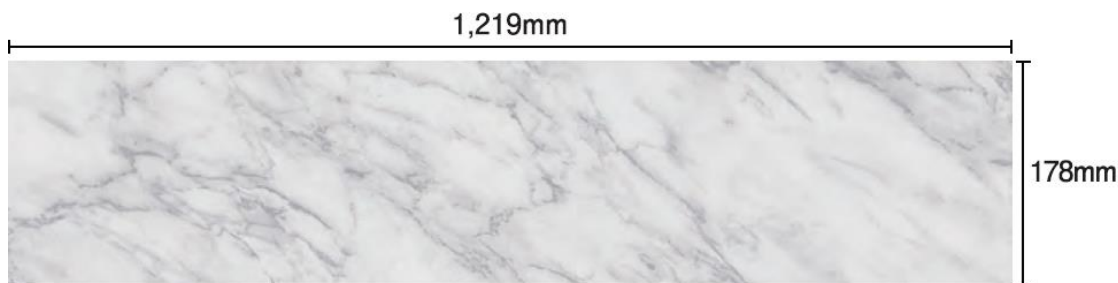
温度環境と施工方法の
組合せが悪いと突上げ・
目隙の原因となります。

必要な道具

- ・スケール ・カッター ・差し金 ・プライヤー・ベンチ(細部のカット用)
- ・丸ノコ ・両面テープ(推奨：3 M Scotch 一般両面テープ)
- ・スペーサー(スイートフロアの端材でも代用可能です) ・圧着ローラー(接着工法用)
- ・クシ目ゴテ(接着工法用)

製品サイズ ・ 入数

厚 5 mm × 幅 178 × 長さ 1,219 mm 10 枚/ケース(2.17 m²) 重量 : 20 kg/ケース



置くだけで床になる。

スイートフロア *Sweet to suite*

ISO 9001 ISO 14001

置くだけで床になる。

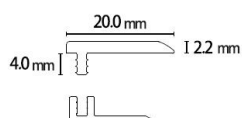
スイートフロア *Sweet to suite*

⚠ 15℃未満、35℃以上の極端な室温での施工は避けてください。

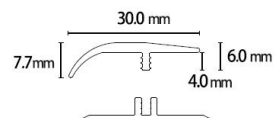
厚さ 5 × 幅178 × 長さ1,219mm (10枚入り) MADE IN KOREA

役物

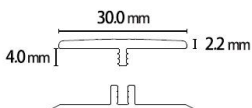
壁見切



段差見切



継手見切



必ず 5 mm 空けてください。

両面テープ・接着剤

置き敷き	固定接着	繰り返し接着(OA フロア)
合板下地・スラブ・その他		
<u>在庫</u> 商品 CD : 44190 3M スコッチ両面テープ GD-40 W40 mm×20M 巻き <u>その他</u> ニトムズ 一般用両面テープ J0416 W40 mm×20M 巻	メーカー：オーシカ セレクトィ UR-132 色：灰褐色 容量 5・9・15 kg 標準塗布量：350g/m ² メーカー：トーヨーポリマー ルビロン エコプラス 色：灰白色 容量：5・15 kg 標準塗布量：350g/m ²	メーカー：オーシカ ディノグリップ 450 色：乳白色 標準塗布量：120g/m ² ※ピールアップとタック 性能はありますが、 伸縮を抑えるものではありません。
水廻り(水掃きのある場所)		
	メーカー：オーシカ セレクトィ UR-132 色：灰褐色 容量 5・9・15 kg 標準塗布量：350g/m ² メーカー：トーヨーポリマー ルビロン マイスター 色：灰色 容量：5・15 kg 標準塗布量：350g/m ²	

商品到着時

- 1) スイートフロア本体は24～48時間前に現場に納入して室内環境(温湿度)に慣らしてから施工してください。
- 2) 当商品は塩化ビニルを主要材料としていますので、荷降ろしの際にフォークリフトや荷吊りロープ等で傷をつけないよう十分注意して下さい。
- 3) 現場、倉庫での保管はパレットや台木の上に載せ、直接地面に置かないで下さい。
また、シート等できちんと養生して下さい。
- 4) 積み過ぎ、長時間にわたる直射日光や高温状態で、曝露・雨水などによる水濡れは避けてください。
変形・褪色・変質の原因となります。※目安の積荷高さは60cm(10ケース程度)としてください。

下地について

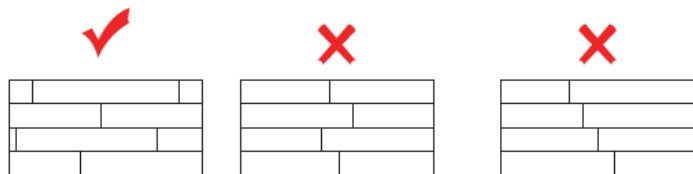
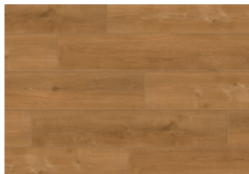
- 1) 床面に砂やほこり、木くずがないようにきれいに掃除をしてください。施工現場の床下地の含水率は
構造用合板：14%以下
RC造：5%以下 金ゴテ仕上げにし、表面を平滑にしてください。
※RC造の新築建物の場合は躯体工事後、自然乾燥は3か月以上、強制乾燥の場合は2週間以上
経過後に施工することを推奨します。
※土間のヒビ・割れ・凹みは補修材で平滑になるよう調整してください。
※置き敷き施工で湿気が気になる場合は、アルミックスーパーポリシートを敷いてから施工してください。
- 2) 床下地にラフ面や不陸・たわみがないことを確認してください。ラフ面や不陸があると、床の施工後に表面の凸凹や過度の摩耗などを生じることがあります。又、たわみは施工後の床鳴りや目地ずれの原因となります。
- 3) 本製品は薄く柔軟性があります。基本的に床用の構造用合板は24mm以上の厚さのものをご使用ください。又、2階部分で15mm厚の合板を使用する場合は根太ピッチを455mmまでとして、それ以上間隔を広げないでください。
- 4) 配線等のためのスペースは防水と防湿処理が必要です。
- 5) 温水式床暖房：温水パネルの場合は12mm厚以上の合板による捨て貼りを行ってください。
注)電気式床暖房にはご使用できませんのでご注意ください。
- 6) カーペットやクッション性のある床の上からは施工が出来ません。必ず全て剥がしてから不陸調整を行い施工してください。
- 7) マンションや遮音性を求められる場所に使用する場合は、下地で遮音性能を確保してください。
*本製品に遮音性能はございません。

開梱・割り付け時

- 1) 開梱時に重要な損傷が認められる場合には、商品到着後 24 時間以内に当社にご連絡下さい。
- 2) 床材を施工する際、仮置きしてバランスよく張り上げるように事前にレイアウトをご確認ください。

床板の短辺側のジョイント部はランダムに配置し、その接合部は隣の列の接合部と 300mm 以上ずらすことを推奨します。

ジョイントが近い場合、一定方向へ動く力が集中し、使用しているうちにジョイント部分に目地ずれが起きる可能性がありますのでご注意ください。

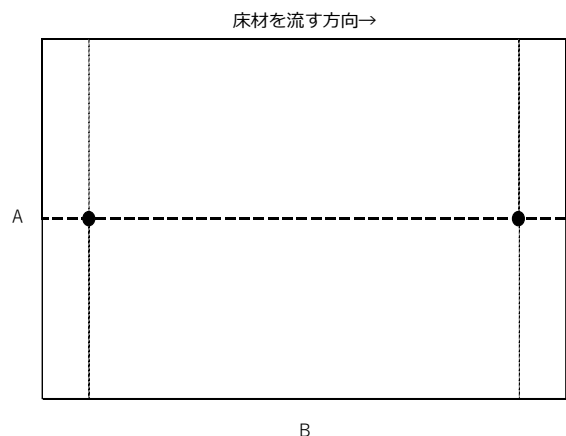


- 3) 貼りは、木目調の場合、より自然な仕上がりになる乱貼り・流し貼り、石目調の場合は千鳥貼りをおすすめします。
- 4) 色番号が必ず同一であることを確認してから施工してください。
- 5) ロットにより多少色差が出る場合がございます。複数ロットが混合している場合は、仮並べの段階で全体的に色合わせをし、バランスを取ってください。
- 6) 最後の列のフロアは幅が 50mm 以上となる様に事前に割付を考慮するようにして下さい。

(最後のパネルが 50mm 以上となるよう 1 列目のパネル幅をカットしてからスタートするなどして下さい。)

幅の出し方の例

- ① A 方向の寸法を 2 箇所で測り、それぞれの中心点を求め、その 2 点を結び墨打ちします。
- ② 墨打ちした線を基に床材の割付を行い、1 列目と最後の列の割幅を決めてください。



- 7) 長さ・幅方向が 10m 以上になる場合、伸び調整のための見切り材を使用して下さい。

※フロアの連結部分を通して施工しないでください。

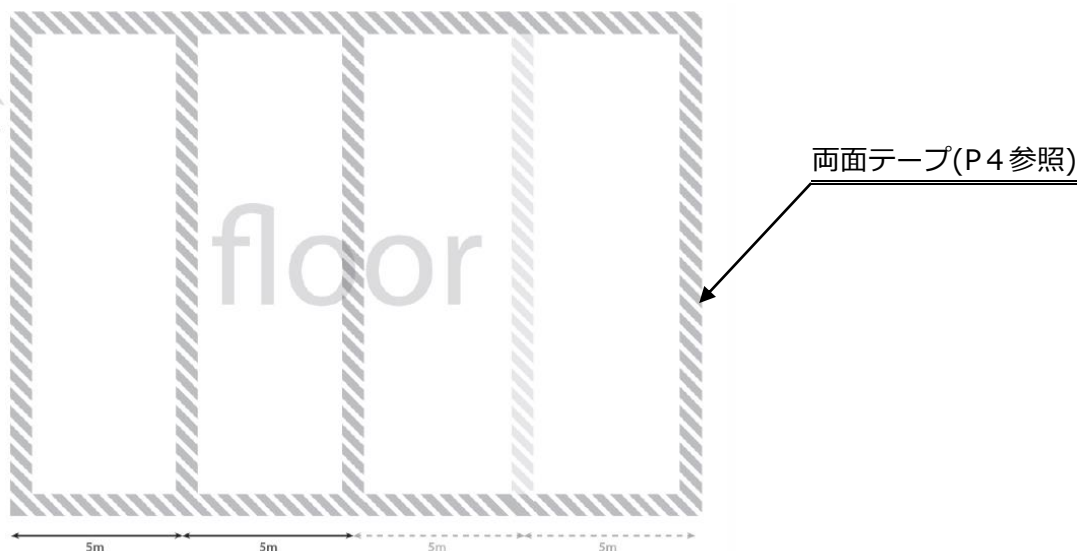
施工方法 置き敷き

- ①本施工要領書に添付されている温度確認シールを用いて、製品温度が適切であることを確認ください。
15℃以下、35℃以上の場合は、施工可能温度に収まるよう室内環境を整えてから行ってください。
※理想の施工温度は 18℃～25℃です。

②仮止め用の両面テープを貼る

壁際から 5 mm 以上離して、床下地全周に両面テープを貼り込んでください。

※重量物を載せる箇所など固定したい床材を除き、基本的にテープは床下地に貼ります。



中間の仮止め補強として床を流す方向と直交させて 5 メートルピッチでテープを貼ってください。

5 メートル以上の部屋の場合は、中間に 1 本貼ることをおすすめします。

あらかじめテープを貼り、剥がしながら床材を置き敷くことで作業性が上がります。

※床材 1 枚ごとにテープを直接貼る必要はありません。

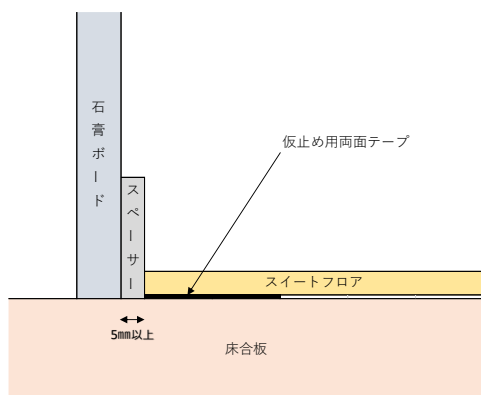
最大スパンについて

見切りなしでの**最大スパンは幅方向 10M×長さ方向 10M**を目安にしてください。それ以上の場合は、継ぎ手見切り材(P3 参照)をご使用ください。

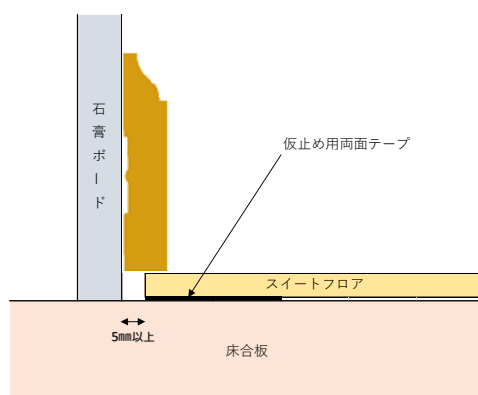
③フロアの貼りはじめ - スペースを取り付ける

- ・床材と壁の間に 5 mm以上のクリアランスを設けてください。
- ・製品本体の端材をお使いいただくと 5 mm確保できます。
- ・スペースは、床材の長手方向で 3 枚程度を目安に入れてください。

施工中



施工後

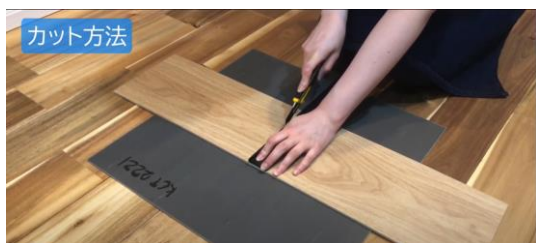


④切断方法

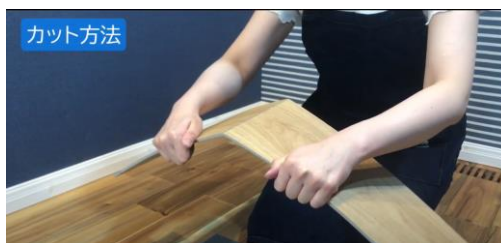
丸ノコ：木材と同様にカットしてください。小口が綺麗に仕上がります。

カッター：以下をご参照ください。

1) 表面に 2～3 回程度切り込みを入れます。



2) 切り込みと反対側に折り曲げます。



3) 最後にカッターで切断し、切り離します。



4) 細かな部分はペンチ又はプライヤーを使用。



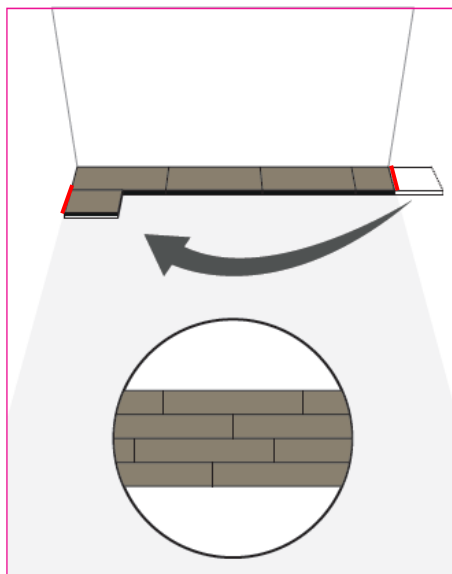
ペンチ・プライヤー：出隅・入隅・建具枠廻りの細かな切断は、カッターで表面に切り込みをいれた後、ペンチ又はプライヤーで折り曲げ、切断してください。

⑤貼り方

床材を一行毎に貼ってゆき壁際で調整(カッターで切断)した床材は次の列の先頭で使用します。

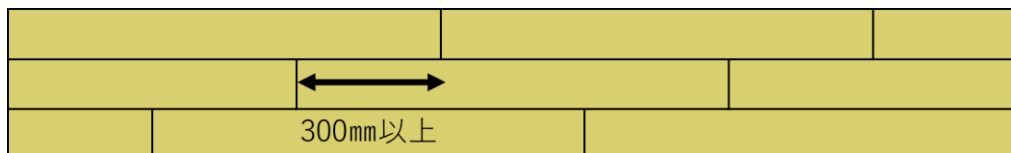
その際に切断した端部が壁側にくるようにすると、仕上がりが綺麗になります。

注)小さな端物が壁際に入らないよう配慮してください。



床板の短辺側のジョイント部はランダムに配置し、その接合部は隣の列の接合部と 300mm 以上ずらすことを推奨します。

ジョイントが近い場合、一定方向へ動く力が集中し、使用しているうちにジョイント部分に目地ずれが起きる可能性がありますのでご注意ください。

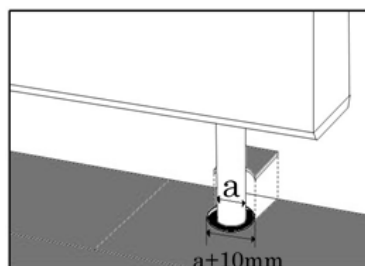


⑥パイプスペース部位の納まり穴を空ける

- ・パイプ用の穴を実際の穴より 10mm 程度大きい穴をドリルで開けます。
- ・壁際の部分をカットし、パネルを敷いた後、カットした部分を再びはめ込みます。
- ・ホルソーなどでそのまま敷いた床に穴を開ける場合は、該当箇所の床材を両面テープでしっかりと固定してから作業してください。

※その他、便器等の水廻り・配管等の施工を行うときもクリアランスの注意が必要です。

(設備・電気業者様へのご説明をお勧め致します)



⑦建具枠・柱廻りの施工

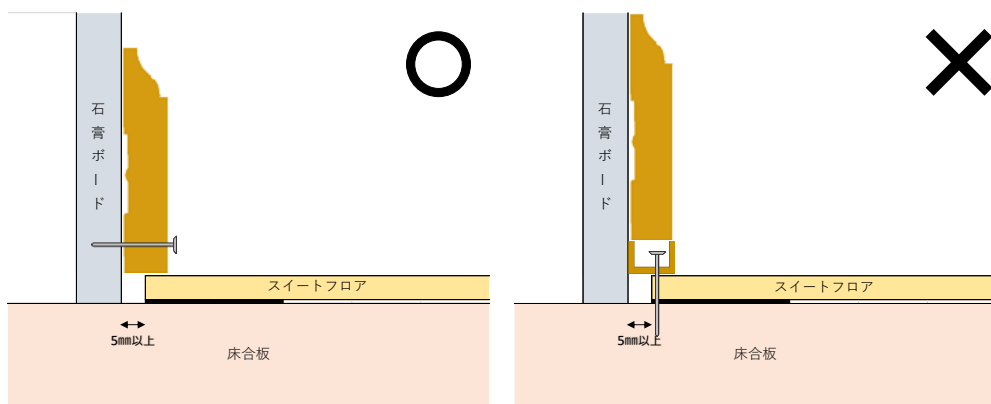
- ・床先行の場合は、建具枠を取り付ける際に床を押さえつけないよう床上から名刺 1 枚程度のスペースを空けるように切断・調整ください。
- ・細かな出隅・入隅部分の加工は、カッターと併用してペンチ・プライヤーなどお使いいただくと、便利です。

⑧巾木納め

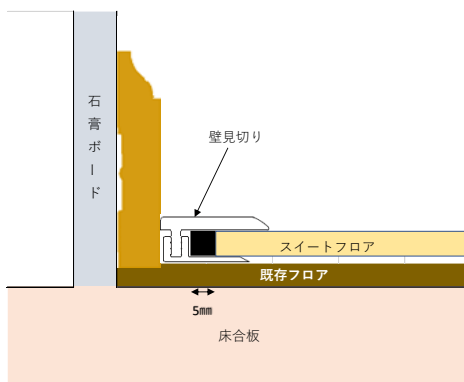
巾木で床材を押えつけない為、通常の巾木またはクッション巾木(ゴム付き)をおすすめします。

床材に直接止付ける必要のあるスライド巾木は使用しないでください。

又、ソフト巾木は吞み込みが少ない為、おすすめしません。



リフォーム(既存床の受けから施工)の場合



施工後は、養生ボード及び弱粘性の養生テープでしっかりと保護してください。

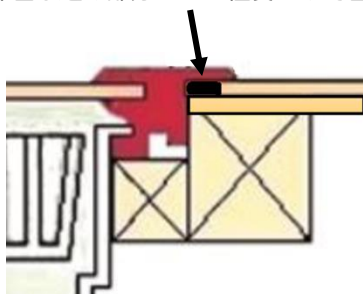
⑨その他 特殊施工・納まり

●床下点検口

蓋部分：スイートフロア+スイートフロア+2.5 mmベニヤ 計 12.5 mm

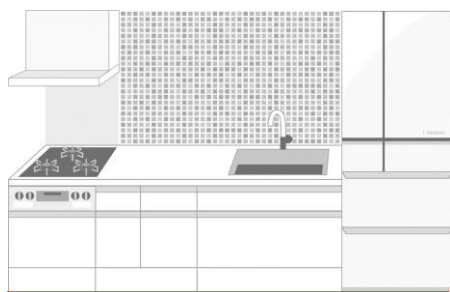
スイートフロア+4 mmベニヤ+2.5 mmベニヤ 計 11.5 mm

枠差し込み部分：2 mm程度空けて差し込んでください。状況によっては接着剤で固定してください。



●キッチン周辺の納まり

- ・あらかじめキッチンが設置されている場合は、L型(壁)見切りを使用し、クリアランスを確保してください。



重量物を設置する際に床材がずれる可能性がある箇所は、あらかじめ両面テープなどの粘着剤を使用して個々の床材を固定してください。

●トイレの便器廻り

スイートフロアと便器の接触する部分(隙間)は、耐水性コーキングをご使用ください。

●掃き出し窓の取付け

アングルピース固定ビスを床材に直接打つ場合は、必ずビス穴径+3～4 mmの下穴をあけてください。

●床暖房

スイートフロアは、**温水式床暖房に限ってご使用いただけます。**

12 mm以上の捨て貼り合板の上から施工ください。又、表面温度が 28℃以上になる場合は接着式の施工を行ってください。

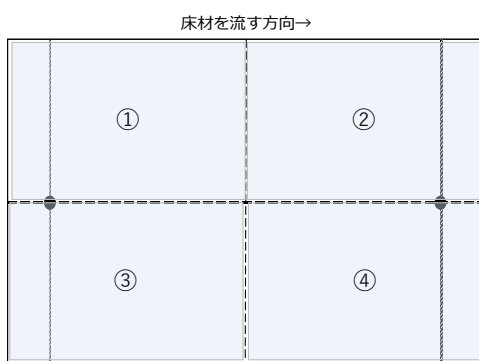
※急激な温度上昇がある電気式床暖房には対応していません。

施工方法 接着

- 1) 床面に砂やほこり、木くずがないようにきれいに掃除をしてください。
コンクリート床やモルタル仕上げの場合は、表面をスクレーパーなどで平滑に仕上げてください。
必要に応じて床補修材でヒビ・割れ・凹みなどを補修してください。

- 2) 目の細かなクシ目ゴテを使用し、床面に適切な接着剤(P4 を参照)を塗布してください。
※配管廻りなどの小さな部分を除き、基本的には床材裏面に直接塗布しないでください。
※一度に塗布せず、床面を分割して順におこなってください

例)貼る順番



- 3) 塗布後は所定のオープンタイムを取ってください。※各メーカーの指定時間に準拠
- 4) 塗布エリアの手前から順に貼り上げます。又、壁際からは1～2 mm程度離してください。
壁際は小さな端物が入らないよう注意してください。サイズが小さいと美観を損ねるだけでなく、接着が不完全になりやすい為、十分な接着強度が得られない恐れがあります。
- 5) 圧着ローラーでしっかりと床材を押えてください。
- 6) 余分な接着剤は水を含んだスポンジや布ですぐに拭き取ってください。

※接着剤の使用方法や注意点は各メーカーの要領事項を順守ください。

※温度が低く、圧着やなじみが上手くいかない時は、室内温度を上げてください。

※巾木は通常巾木・クッション巾木及びソフト巾木の使用が可能です。(スライド巾木は不可)

接着直後に養生すると、結露水や溶剤水蒸気などがこもり、床材の反りや突き上げなどが生じる場合がございますので、養生シートは接着剤が十分に硬化してからご使用ください。

施工方法 接着 OA フロア

下地パネル(OA フロア・フリーアクセスフロア)

- ・床貼り・接着剤塗布の前に下地パネルは全て施工し終わってください。
- ・下地パネルの段差は1mm以下として、隙間も2mm以内に抑えてください。スイートフロアの目地段差の原因となります。

貼る前に

- ・接着剤はパネル目地・支持脚の固定ネジに流れ込まないように、下地パネルの目地を避けて塗布して下さい。
- ・開口部の大きな箇所や凹凸が大きな下地パネルへの貼付けは、床材の破損に繋がりますので、施工はおやめください。

貼り方

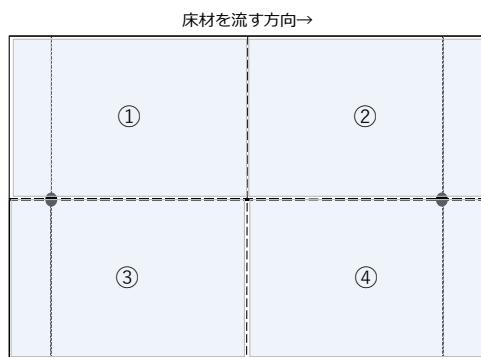
- ・またぎ貼りとして下地パネル目地とスイートフロアの目地を半分程度ずらして割付け、お貼りください。そうすることにより段差の影響を少なくします。

- 1) くし山の無いヘラなどを使用し、床面に適切な接着剤(P4を参照)を塗布してください。

※配管廻りなどの小さな部分を除き、基本的には床材裏面に直接塗布しないでください。

※一度に塗布せず、床面を分割して順におこなってください

例)貼る順番



- 2) 塗布後は所定のオープンタイムを取ってください。※各メーカーの指定時間に準拠

- 3) 塗布エリアの手前から順に貼り上げます。又、壁際からは2～3mm程度離してください。

壁際は小さな端物が入らないよう注意してください。サイズが小さいと美観を損ねるだけでなく、接着が不完全になりやすい為、十分な接着強度が得られない恐れがあります。

4) **室温が15℃以下の場合は、目地に名刺1枚分の隙間を空けて、ゆるめに貼付けてください。**

※スイートフロアはガラス繊維シートを中間層に挟むことで形状安定性はありますが、温度によって伸縮します。ピールアップボンドを使用する場合は弱接着になりますので、適切に施工しなければ目隙や突き上げの原因になります。

5) パネル段差や目地の隙が大きいと、施工中に目地ズレが生じる場合があります。

ある程度(5～10枚程度)貼り終えた時点で、調整ラインを設けて全体のバランスを見ながら詰め過ぎないように注意します。

6) 圧着ローラーでしっかりと床材を押えてください。

7) 余分な接着剤は水を含んだスポンジや布ですぐに拭き取ってください。

施工後は、養生ボード及び弱粘性の養生テープでしっかりと保護してください。

メンテナンス

- ・通常は化学モップ・掃除機をご使用ください。
- ・汚れが酷い場合は中性洗剤を希釈し、雑巾に含ませ固絞りして拭いてください。
- ・細かなゴミ・砂が表面の凹凸部分にある場合は、乾燥したもので拭いても取り切れませんので、ウェットタイプのフロアクリーナーや固く絞った雑巾で拭き取るか、掃除機をご利用ください。
- ・表面には耐久性の高い保護フィルム(商業用レベル)で被覆していますが、万が一傷が付いた場合は両面テープを床材表面に貼り、テープの端部を引き上げると床材が持ち上がりますので、1枚から交換が可能です。

目隙や突き上げについて

目隙・突き上げは急激な室温変化で発生します。引渡し前・美装段階での症状は、室温が適正でないことが原因です。又、長期間の留守による室温変化も同様の症状が起こります。

その際には、**まず空調機器で適正な室温に戻してから、調整を行ってください。**適正温度外で調整すると、空調を作動させた後に目隙や突き上げの症状が現れることがありますのでご注意ください。

適正室温での調整方法

- ・隙間が出来た場合は、角材など端材に両面テープを貼り、床面に固定した後、足で端材を踏みながらゴムハンマーなどで軽く寄せたい方向に叩くことで調整できます。
※叩きすぎると全体に影響しますので、様子を見ながら軽く少しずつ行ってください。
- ・突き上げが起きた場合、突きあがった床材をカットして調整することが可能です。
小口を紙やすりで削ることで仕上がり良く微調整もできます。

注意事項

- 1) スイートフロアはUVコーティングを施しておりますので、ワックスがけは不要です。
表面の汚れ残りの原因ともなりますので使用しないでください。
- 2) 液体物をこぼした場合は、すみやかに拭き取りください。特に、醤油・ソース・酢・食用油などの調味料や色の付いた液体物はシミ跡になりますのでご注意ください。
- 3) スチームクリーナー・高圧洗浄機などは使用しないでください。表面コーティングを破損する恐れがあります。
- 4) ファンヒーターの温風が直接床板面に当たらないように注意してください。長時間にわたり床板に熱が加わると変形や変色の原因になる恐れがあります。
- 5) 化学モップや掃除機を利用して床表面を清潔に保ってください。又、汚れのこびりつき等は固く絞った雑巾で落としてください。
- 6) 液体をこぼした場合はすぐに拭き取ってください。目地に入り込んだ場合は、床材表面に両面テープを貼り、引き起こすと床が取り外せますので、下地が濡れている場合などは乾燥させた後、床を元に戻して(はめ込んで)ください。
- 7) 汚れを拭き取る際には、シンナー/アセトンなどの表面を傷めるような溶液を使用しないでください。
- 8) 家具のような重いものを移動するとき、床の表面に傷がつかないように注意してください。引きずって移動させることで床材自体が動く恐れがありますのでご注意ください。
- 9) 施工後は、床材に直射日光が当たらないようカーテンなどで、できるだけ遮ってください。
- 10) スイートフロアは、商業施設に対応した耐久性が高い保護フィルムを採用している為、土足歩行が可能です。但し、サネによる接続をしていない為、調理場など床を水洗いしたりする場所では目地に水が入る可能性が高い為お使い頂けません。又、水が滞留しやすい浴室廻りなどに使用する場合はマットを敷くなどの工夫をしてください。
- 11) ペットなどの動物の排泄物は、すぐに拭き取って固く絞った雑巾等で清掃してください。耐久性の高いフィルムを施しているため拭き取りは簡単ですが、放置した場合シート表面の変色や耐久性劣化につながりますのでご注意ください。
- 12) スイートフロアに鋭利なものや硬いものを落としたりすると傷つきます。又、重い物を引きずったり家具のキャスターなどに硬いゴミや小石などが付着して使用したりすると傷つく恐れがあります。

上記による破損・変色・劣化があった場合でも、スイートフロアは1枚から簡単に交換が可能です。

置くだけで床になる
スイートフロア
Sweet to suite

スイートフロア 商品紹介動画 / 施工方法動画



スイートフロア 商品説明・施工例サイト



www.kimuranet.jp

〒060-8576 札幌市東区北6条東4丁目1番地7 デ・アウネさつぽろ6階

TEL (011)721-4311 FAX (011)742-4714

営業所 : 旭川・釧路・帯広・函館・仙台・関東・東京・神奈川・松本
名古屋・大阪・福岡

